

2022年度 法医学 再試・追試

2023/01/30 実施

大問I 糖尿病、B型肝炎を自病にもつ男性。夫婦喧嘩で頭蓋底骨折、肋骨骨折を患う。意識不明でその後細菌性肺炎を発症し死亡。

問1 直接死因は何か

- a 細菌性肺炎
- b B型肝炎
- c 頭蓋底骨折
- d 肋骨骨折
- e 糖尿病

問2 死亡診断書に記載する原死因は何か。

- a 細菌性肺炎
- b B型肝炎
- c 頭蓋底骨折
- d 肋骨骨折
- e 糖尿病

問3 死亡診断書の「死因の種類」はどれか。

- a 「1 病死及び自然死」
- b 不慮の外因死の「2 交通事故」
- c 不慮の外因死の「8 その他」
- d 「11 その他及び不詳の外因」
- e 「12 不詳の死」

大問II

問1 異状死とはどのようなものか説明せよ。また、異状死を認めた場合、医師はどのような対処をしなければならないと医師法21条で定められているか。(異状死を異常死と記載した場合、試験の点数に関わらずこの試験を落とします。)

問2 窒息(外窒息)の原因をすべて列挙せよ

問3 死亡診断書と死体検案書の違いについて説明しなさい

問4 HZ(異型接合度), PIC(多型情報含有値), PD(個人識別能), MEC(平均排除率)の中から一つを選んで簡単に説明せよ。

大問 III

問1 死体硬直について正しいものを選び。

- a 腐敗が関与している。
- b 心臓では起こらない。
- c 高齢者ほど硬直の程度が強い。
- d 強直性硬直では慢性疾患で氷やすい。
- e 温度が高いほど硬直が早く開始する。

問2 死体現象について正しいものを2つ選び。

- a 死後硬直は早期死体現象である。
- b 自家融解は後期死体現象である。
- c 腐敗は早期死体現象である。
- d 【再現不能】
- e 【再現不能】

問3 70歳男性、5月のある日の10時にベッド上で仰向けになっているのを発見される。2時間後に検死される。検死所見は、直腸温30度(室温18度)、紫斑は背中側で容易に褪色、死後硬直は全身の関節で中程度。

死亡推定時間を求めよ。

- a 前日の午後0時
- b 前日の午後4時
- c 当日の午前0時
- d 当日の午前4時
- e 当日の午後9時

問4 【再現不能】

問5 正しいものを選び

- a 表皮剥脱は生活反応である。
- b 皮下出血は受傷直後から明確に判別できる。
- c 挫創は受傷部位以外でも生じうる。
- d 非解放性損傷のことを「傷(狭義)」という
- e 二重条痕とは二本線状の表皮剥脱のことである。

問6 【再現不能】

問7 死亡推定時刻を求めるものだったはずですが

問8 【再現不能】

問9 CO中毒について正しいものを2つ選べ。

- a COヘモグロビンの飽和度30%は致死域である
- b 死斑は暗赤紫色である
- c ヘモグロбинは一酸化炭素との方が酸素とよりも親和性が高い
- d 貧血の人はCO中毒になりやすい
- e 重症でも後遺症を残さずに回復する

問10 正しい組み合わせはどれか。3つ選べ。

- a テトロドトキシン-腐蝕毒
- b 有機リン剤-酵素毒
- c クロロホルム-神経毒
- d 塩素酸カリウム-実質毒
- e 一酸化炭素ガス-血液毒

問11 急性頭部外傷の死因で適当なものはどれか。

- a 局所性脳挫傷
- b 脳震盪
- c 脳幹損傷
- d 血液気道吸引
- e 頭皮下血腫

問12 【再現不能】

問13 溺死において正しいものを2つ選べ。

- a 口腔粘膜に溢血点は溺死に特異的
- b 鼻口周辺に白色泡沫が生じるのは溺死に特異的
- c 溺死肺は肺文部水腫と辺縁部気腫
- d 漂母皮は生活反応である
- e 淡水溺死は高カリウム血症が起きる

問14 死体の所見で眼球結膜に溢血点が多数見られるものを選べ。

- a くも膜下出血
- b 溺死
- c 絞殺
- d 定型的いけい
- e 急性心筋梗塞

問15 【再現不能】

問 16 65歳の男性。監察医制度の地域にある自宅で死亡が発見された。施錠あり、体表に外傷や腐敗を認めない。所轄警察は犯罪性はないと判断した。持病(高血圧)の定期検診で診療した医師によると、死亡に至った過程は説明ができないという。監察医の検案下で解剖を行う。種類は何か。

- a 病理解剖
- b 行政解剖
- c 司法解剖
- d 承諾解剖
- e 系統解剖

問 17 以下の毒物について正しい組み合わせを3つ選べ

- a テトラドトキシン-腐蝕毒
- b 有機リン-酵素毒
- c 一酸化炭素-血液毒
- d (?) -神経毒
- e 【再現不能】

問 18 死亡診断書(死体検案書)に病死と記載できるものを選べ。

- a 交通事故で多臓器障害、入院中続発肺炎で死亡
- b 交通事故で脳損傷、入院中に多臓器不全で死亡
- c 交通事故で全身打撲、入院中に急性腎不全で死亡
- d 交通事故で肋骨多発骨折、入院中に高血圧性脳出血で死亡
- e 交通事故で全身打撲、入院中に肺血栓塞栓症で死亡

問 19 アルコール(エチルアルコール)について正しいものを1つ答えよ。

- a アルコールは腎臓で代謝される。
- b 摂取したアルコールは全身臓器に一様に分布する。
- c 毛髪を調べることで、過去のアルコール過剰摂取を証明できる。
- d アルコールは神経抑制作用を示す。
- e 血中アルコール濃度はアルコール摂取直後から常に尿中アルコール濃度より高い。

問 20 正しいものを2つ答えよ。

- a 墮胎罪の成立には胎児の生死は問わない。
- b 妊娠1カ月の胎芽について、殺人罪が成立する。
- c 胎盤の絨毛膜絨毛からは母親のDNAが検出される。
- d 助産師は死産証明書を発行できる。
- e 墜落産は初産婦に多い。

法医学について

1：出席等について

すべての授業において、秘書さんが座っている席をチェックするという方式で出席を取っておりました。

2：コアタイムについて

コアタイム(木曜日実施)のレポートは、試験(金曜日)開始直前に回収しておりました。時間が無いので気をつけてください。

3：法医学の合否情報など

本試の実施日は2022年12月23日、発表は2023年1月17日でした。

再試の対象者は25名(うち、本試欠席者17名)。再試の実施日は2023年1月30日、再試の発表は2023年2月6日でした。再試・追試については「試験の形式は、本試験と同様MCQと記述です」という予告がなされました。

再再試となった者は9名(再試の再試が2名、追試の再試が7名)であり、追試の再試は2023年2月13日に行われました。再試の再試については口頭試問が行われました(日程は個別調整)。

生命倫理も含めて、全員の合格が2023年3月1日に発表されました。